

科目名称：	デザイン・ビジネス演習Ⅲ	
担当者名：	大谷 友理, 東田 修一, 横山 真紀, 村井 雅美	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	演習	8
授業の目的・テーマ		
デザイン・ビジネス演習Ⅱの公開オーディションで見えてきた各自の個性を生かした新しい表現や企画を模索し、卒業制作や実社会で通用するためのデザインのクオリティをより高めていく。		
授業の達成目標・到達目標		
実社会での課題に対応出来る表現方法を身につける。DTPソフトウェア（Illustrator、Photoshop、AfterEffectなど）のより高度な技術習得を目指す。より具体的で実際の仕事に近い演習を行うことによって実践力と企画力、プレゼンテーション能力を身につける。		

美術学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	自己理解を深め目標に向かって主体的に行動するとともに、多様性を尊重し、美術を通して様々な価値観を持つ他者との良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP(2)	様々な問題に取り組み幅広い教養を身につけるとともに、美術を通して、変化する社会に対応するための協働的な実践力を身につけている。	
DP(3)	美術の分野において基礎知識を身につけるとともに、専門的な知識や技能を修得し、これらを柔軟に活用し表現していくことができる。	○

評価方法/ディプロマポリシー	視覚表現力	探求心	アイデア	独自性	プレゼンテーション	合計
美術DP(1)						0
美術DP(2)						0
美術DP(3)	20	20	20	20	20	100
						100

実務経験のある教員の担当	担当教員の実務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
なし	《内容1》大谷 友理：デザイナー、アートディレクター、イラストレーター	《経験年数1》20年以上
	《内容2》東田 修一：デザイナー	《経験年数2》10年以上
	《内容3》村井 雅美：映像クリエイター	《経験年数3》20年以上
	《内容4》横山 真紀：デザイナー、アートディレクター	《経験年数4》20年以上

備考

到達目標ルーブリック	とても良い(S)	良い(A)	普通(B)	要努力(C)
視覚表現力	表現したいことが適切に反映されており、人に何らかの感動を与える質の高いビジュアルである。	表現したいことが適切に反映されており、質の高いビジュアルである。	表現したいことが部分的に反映されており、ある程度整ったビジュアルである。	表現したいことが十分に反映されておらず、未完成なビジュアルである。
探求心	テーマに対して深く探求し、あらゆる方法で取材を行って見聞を広めている。	テーマに沿って取材を行っている。	テーマに沿って部分的に取材を行っている。	テーマに沿って十分に取材できていない。
アイデア	着眼点が良い、新規性があり、創意工夫できている。	着眼点が良い、創意工夫できている。	ある程度創意工夫できている。	ありきたりで十分に創意工夫できていない。
独自性	個性を磨き上げ、何物にも替えられないユニークな表現ができている。	個性を認識し、魅力的に表現できている。	個性を認識し、ある程度表現できている。	個性を有するも、十分に表現できていない。
プレゼンテーション	参加者に目を配り、自信を持って解りやすく且つ人を惹きつける発表ができる。	参加者に目を配り、自信を持って解りやすく発表ができる。	参加者に解りやすく発表ができる。	参加者に解りやすく発表で

授業の内容・計画		事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1週	IPIAポスター制作	課題に対する取材・アイデア出し・制作・試作・改善(PDCA)を行っておく。	300分
第2週	外部機関と連携した課題解決型学習(グループワーク)	課題に対する取材・アイデア出し・制作・試作・改善(PDCA)を行っておく。	300分
第3週	インフォグラフィックス1	課題に対する取材・アイデア出し・制作・試作・改善(PDCA)を行っておく。	300分
第4週	インフォグラフィックス2	課題に対する取材・アイデア出し・制作・試作・改善(PDCA)を行っておく。	300分
第5週	インフォグラフィックス3	課題に対する取材・アイデア出し・制作・試作・改善(PDCA)を行っておく。	300分
第6週	インフォグラフィックス4、プレゼンテーション(電子黒板の使用)及びディスカッション	プレゼンシートや画像データなど必要な資料の作成、発表準備を行っておく。	300分
第7週	スペーシング1	課題に対する取材・アイデア出し・制作・試作・改善(PDCA)を行っておく。	300分
第8週	スペーシング2	課題に対する取材・アイデア出し・制作・試作・改善(PDCA)を行っておく。	300分
第9週	プロモーション映像制作1	課題に対する取材・アイデア出し・制作・試作・改善(PDCA)を行っておく。	300分
第10週	プロモーション映像制作2	課題に対する取材・アイデア出し・制作・試作・改善(PDCA)を行っておく。	300分
第11週	プロモーション映像制作3、プレゼンテーション(電子黒板の使用)及びディスカッション	課題に対する取材・アイデア出し・制作・試作・改善(PDCA)を行っておく。	300分
第12週	産業界や地域から依頼された課題制作1	課題に対する取材・アイデア出し・制作・試作・改善(PDCA)を行っておく。	300分
第13週	産業界や地域から依頼された課題制作2	課題に対する取材・アイデア出し・制作・試作・改善(PDCA)を行っておく。	300分
第14週	産業界や地域から依頼された課題制作3	課題に対する取材・アイデア出し・制作・試作・改善(PDCA)を行っておく。	300分
第15週	産業界や地域から依頼された課題制作4、プレゼンテーション(電子黒板の使用)及びディスカッション	プレゼンシートや画像データなど必要な資料の作成、発表準備を行っておく。	300分

事前事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と準備学習を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。また、事前事後学修としては課題にかかわらず社会の取り組みに関心を持ち、新しいアイデアやデザインへの糧となる経験を積極的に行ってもらふことになる。

成績評価の方法・基準

定期試験は、実施しない。その他の評価配分は、以下のとおりである。
ルーブリックによる課題の評価100%

課題に対してのフィードバック

各課題ごとにプレゼンテーションを行い口頭でアドバイスをを行う。後日面談を通してフィードバックする。また教員だけでなく学生目線での意見もgoogleフォームで集約し各自にフィードバックする。

教科書・参考書

プリント配布及び授業時に各教員から紹介